

令和3年度全国学力・学習状況調査
松江第四中学校 問題別調査結果 (令和3年5月27日実施)

中学校調査

集計結果

対象生徒数		江戸川区立松江第四中学校	東京都(公立)	全国(公立)	
		163	70,017	903,157	
国語科	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
	全体	14	貴校 65	江戸川区 65	東京都(公立) 67
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	81.8	81.9	79.8
	書くこと	3	58.9	59.7	57.1
	読むこと	4	48.3	52.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	74.8	76.1	75.1
	国語への関心・意欲・態度	4	59.2	59.2	56.0
評価の観点	話す・聞く能力	3	81.8	81.9	79.8
	書く能力	3	58.9	59.7	57.1
	読む能力	4	48.3	52.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	74.8	76.1	75.1
問題形式	選択式	6	63.9	67.0	63.9
	短答式	4	73.6	75.1	74.4
	記述式	4	59.2	59.2	56.0

数学科	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
	全体	16	貴校 50	江戸川区 57	東京都(公立) 60
学習指導要領の領域	数と式	5	59.1	68.5	64.9
	図形	4	42.8	56.0	51.4
	関数	3	49.3	58.1	56.4
	資料の活用	4	46.5	54.7	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0			
	数学的な見方や考え方	7	34.1	44.6	41.1
	数学的な技能	3	70.6	79.6	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	58.4	68.1	65.6
問題形式	選択式	2	40.2	55.6	52.4
	短答式	9	64.8	72.8	70.5
	記述式	5	27.4	38.8	35.0

〈現状分析〉

【国語】
 ・「国語の勉強が好き」への肯定的回答は53.0%(都61.3、全国60.8)ではあるが、「国語の授業の内容はよく分かる」への肯定的回答が80.1%(都80.1、国80.1)。
 ・「根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしている」は80.4%(都76.0、国74.6)、「文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりしている」は86.2%(都78.2、77.0)、「文章で書く問題を最後まで書くことと努力している」が80.7%(都75.0、国73.7)と、授業ではじっくりと取り組んでいる様子が伺える。本学調査において「時間が余った」生徒は27.7%(都35.9、国33.1)であった。
 ○読むこと(読む能力)の正答率が48.3%(都52.5、国48.5%)
 ○選択式の問題の正答率が63.9%(都67.0%、63.5%)
 上記二点が特に改善が必要と思われる。

【数学】
 ・「数学の勉強が好き」への肯定的回答は63.8%(都61.3、全国59.1)ではあり、「数学の授業の内容はよく分かる」が77.1%(都75.8、国74.6)と決して低くない。
 ・「問題の解き方が分からない時はあきらめずにいろいろな方法を考える」は81.9%(都75.4、国75.8)と、授業における取組姿勢も悪くはない。
 ・しかし、4問(数学的な事象を説明する問題と数学的に表現する問題)において、無回答率が30%を超えており、都・全国と比べて10%前後高くなっている。「時間が余った」と回答した生徒が55.4%(都48.8、国44.7)であり、途中であきらめた生徒が多いと言える。
 ○基礎・基本の定着に課題【問題1】 $(5x+6y)-(6x-2y)$ の正答率が63.8%(都:80.4%、国77.1%)
 ○ことがらが成り立つこと理由を説明することに課題【問題6(1)】正答率が52.8%(都:67.4%、国61.8%)
 ○事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することに課題【7(2)】正答率が15.3%(都:30.3%、国27.7%)
 ○図形の性質を見いだし、数学的に表現することに課題【問題9(3)】正答率が17.8%(都:33.0%、国28.8%)

〈質問紙・意識調査からの分析〉

(1)生活面での学習に関わる環境として、マイナス要因は以下の通りである。
 ・1日あたりのゲーム(PC、携帯・スマホ)をする時間が「4時間以上」の生徒が24.1%(都17.8、全国16.7)、「2時間以上」は74.1%(都58.7、国57)。
 ・「家で計画を立てて勉強をしている」生徒は、13.9%(都19.2、国19.4)。
 ・授業以外での学習時間(塾含む)が「2時間以上」の生徒は、36.5%(都47、国41.8)。
 ・1日あたりの読書時間が「30分以上」は21.6%(都29.1、国28.9)

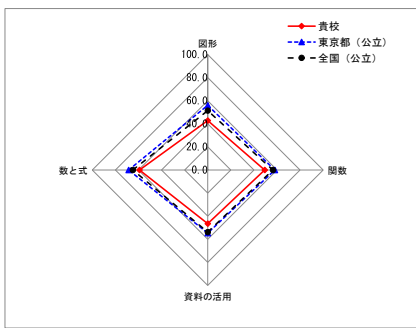
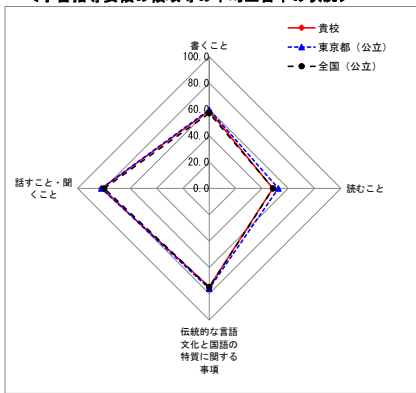
(2)「自己肯定感」に関連する問いには、都・全国比で高い結果がでている。
 ・「自分にはよいところがあると思う」に肯定的な回答をした生徒が87.3%(都76.3、国76.2)
 ・「将来の夢や目標をもっている」は、47.6%(都38.5、国40.5)・「自分で決めたことはやり遂げる」は、47.0%(都31.8、国34.7)・「人が困っている時にはすすんで助ける」は60.2%(都39.1、国41.6)・「人の役に立つ人間になりたい」が76.5%(都69.3、国74.3)

(3)授業、道德、学級活動などにおける対話的な活動の成果が表れている。
 ・「学校に行くには楽しいと思う」は56.6%(都42.9、国43.3)・「友達と協力するのは楽しい」が77.1%(都63.6、国65.8)・「話し合い活動で、他人の意見を受け止め自分の意見を伝える」が63.3%(都38.5、国36.8)・「友達話し合うとき、友達の意見を最後まで聞く」が80.1%(都65.0、国67.1)・「学級の話し合い活動で、自身の考えを深めたり広げたりすることができる」が52.4%(都33.8、国33.9)・「道德の授業で、自分の考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいる」が70.5%(都48.2、国48.8)

(4)新型コロナウイルスの感染拡大による休校中の学習への不安
 ・63.9%の生徒が「勉強について不安を感じ」、「計画的に学習を続けることができた」のは30.1%(都36.5、国37.6)であった。

(5)まとめ
 ☆男女市松模様の4人組学習の取組が効果を上げている。しかし、家庭で振り返ったり、繰り返し学習し定着させる習慣に課題がある。毎トレノートへの取組状況がどの学級も同様になるよう、取組が一人一人に還元される空気を作っていくことを家庭とも連携しながら目指す。

〈学習指導要領の領域等の平均正答率の状況〉



〈改善策・授業改善のポイント〉

【国語】
 ①文章を読み解く力が不足しているため、ワークを活用するなど、設問を解かせる経験を積ませる。
 また、初見の問題を用意し、解き方のコツなども伝える。
 ②選択問題に弱いので、自分の考えた解答と選択肢との比較の行い方を学ばせるとともに、またその時に必要な言い換えの言葉や言葉などの知識を持てるよう指導する。

【数学】
 ①基礎・基本の定着については、文字を用いた式の計算が確実にできるようにするために、計算の法則を確認したり、計算の過程を振り返ったりする活動を取り入れていく。
 ②ことがらが成り立つこと理由を説明することについては、ことがらが一般的に成り立つ理由を構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導する。
 ③事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することについては、日常的な事象に伴って変わる2つの数量について、観察や操作、実験などの活動から得られたデータを表やグラフに表現することを通して、その数量の関係を捉えることができるように指導する。
 ④図形の性質を見いだし、数学的に表現することについては、ある条件の下で成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現できるように指導する。